

群書類従と十七箇条憲法



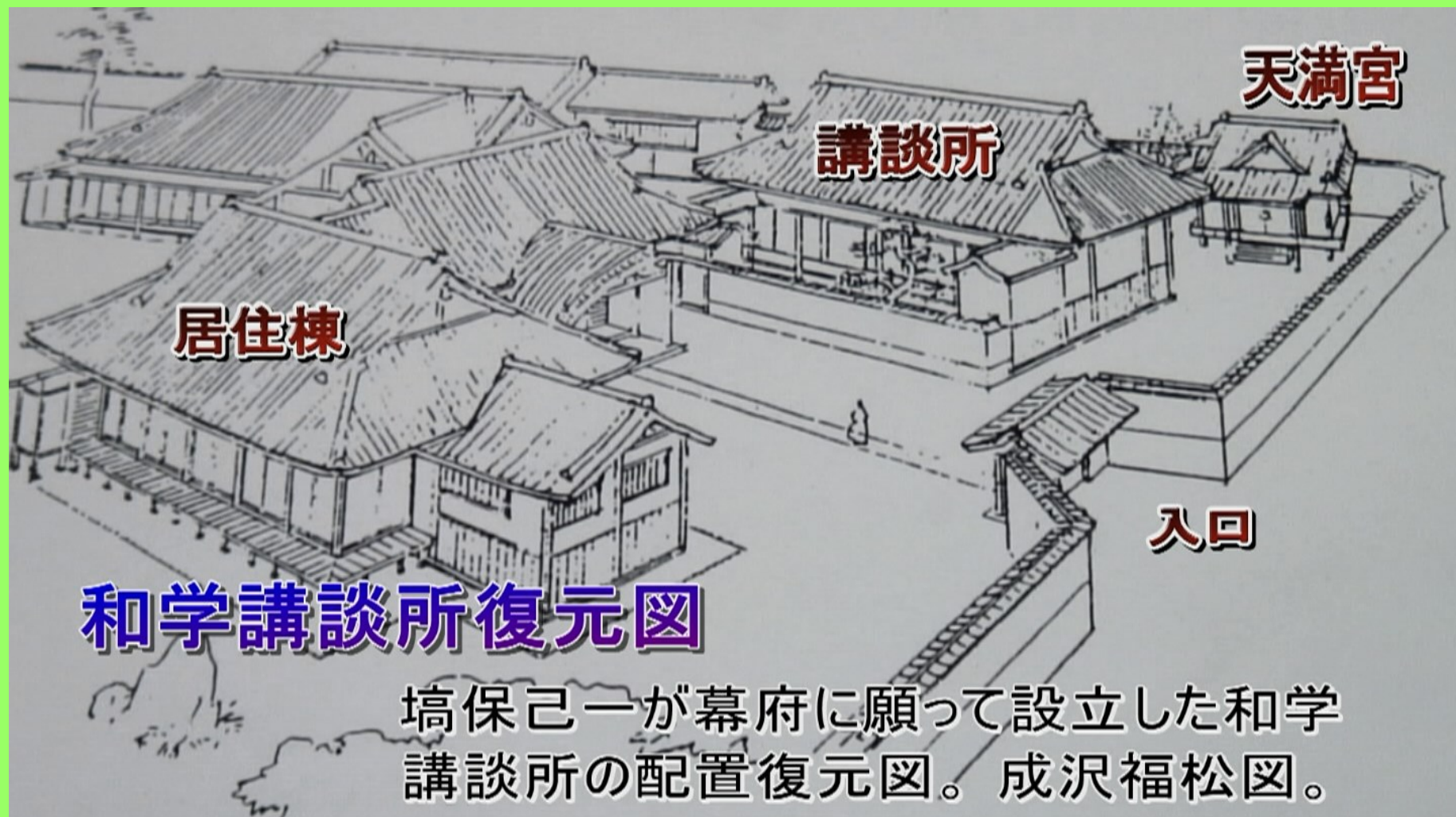
総検校塙保己一先生遺徳顕彰会
事業部会委員 田中 学

本庄市が生んだ世界の偉人 塙保己一検校の業績は



- ① 和学講談所を設立したこと
- ② 群書類従を編纂したこと

和学講談所の復元図



和学講談所の機能

和学講談所は、塙保己一検校が建議して作った学校です。

寛政5年(1793年)に設置され、国学の教授や群書類従の出版事業が行われました。

慶応4年(1868年)に廃止されましたが、貴重な文献は東京大学史料編纂所に引き継がれています。

塙保己一和学講談所跡

東京都千代田区三番町24

靖国神社の近所です



塙保己一検校が編纂した群書類従



(写真は、群書類従の一部です)

「群書類従」って何なの？

江戸時代後期に塙保己一検校が編纂し刊行した叢書(多くの書物を集めてまとめたもの)です。

正編530巻666冊(1779~1819年刊)、

続編1150巻1185冊(1822年編)。

神祇・帝王・補任・系譜・伝・官職・律令・公事・

装束・文筆・消息・和歌・連歌・物語・日記・

紀行・管弦・蹴鞠・鷹・遊戯・飲食・合戦・武家・

釈家・雑の25部に分類されています。

群書類従の版木は、東京都渋谷区にある温故学会に保管されています



温故学会の玄関には、塙保己一 検校の座像があります



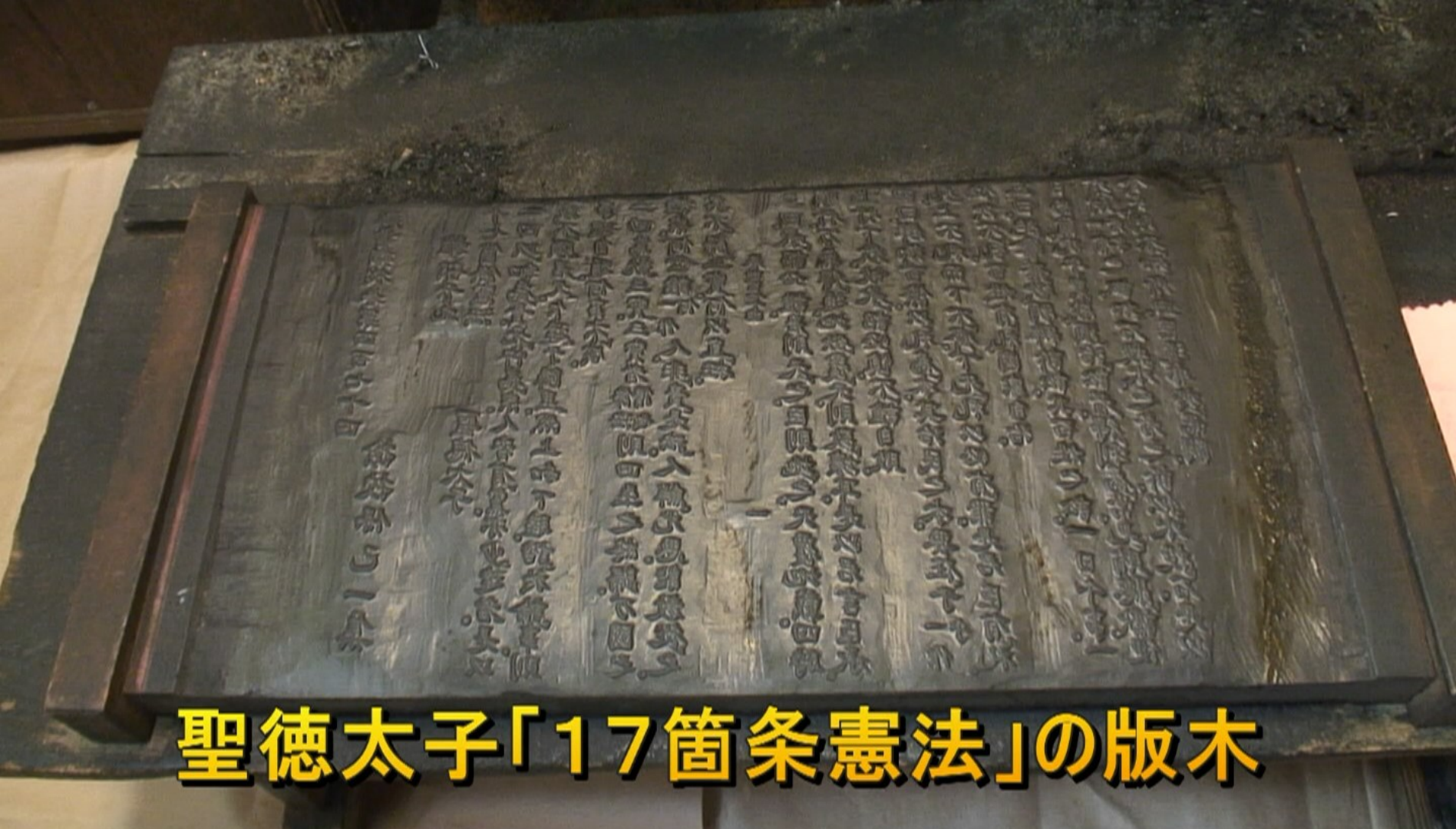
温故学会 塙保己一史料館

群書類従 版木保管庫

群書類従の版木は、1階と2階の保管庫に順番に並んでいます

群書類従の版木は、山桜の板に彫られています





聖徳太子「17箇条憲法」の版木

これが、十七箇条憲法の版木です。
本庄市は体験用レプリカを作りました。



群書類従は現在も印刷可能



群書類従は現在も印刷可能









群書却後卷第四百七十四

檢校保己一集

雜部廿九

十七箇條憲法

聖德太子

一曰以和為

宗人皆有黨亦少違者是以

或不順君

下睦。錫於論事則

事理自通

二曰萬

極宗

其不

聖德太子十七箇條憲法

有財一有
食民則不知所由臣道

群書類從卷第四百七十四

檢校保己一集

雜部廿九

十七箇條憲法

聖德太子

一曰以和為貴。无忤為宗。人皆有黨。亦少違者。是以或不順君父。不違于隣里。然上和下睦。諧於論事。則事理自通。何事不成。

二曰篤敬三寶。三寶者佛法僧也。則四生之終歸。萬國之極宗。何世誰一作何人。非貴是法。人鮮尤惡。能教從之。其不歸三寶。何以直枉。

群書類從卷第四百七十四

檢校保己一集

雜部廿九

十七箇條憲法

聖德太子

一曰以和為貴。

二曰篤敬三寶。三寶者

佛法僧也

十七箇条憲法は、推古12年（604年）に聖徳太子が作ったと言われる日本最初の成文法です。

内容は、当時の豪族・官僚に対する政治的・道徳的な訓戒です。

しかし、日本最初の成文法なのに、塙保己一検校は、この十七箇条憲法を、群書類従の律令部ではなく雑部に収めています。

それは何故か。

二曰 篤敬三寶。

あつく三寶を敬え

三寶者 佛法僧也。

三寶とは仏法僧なり

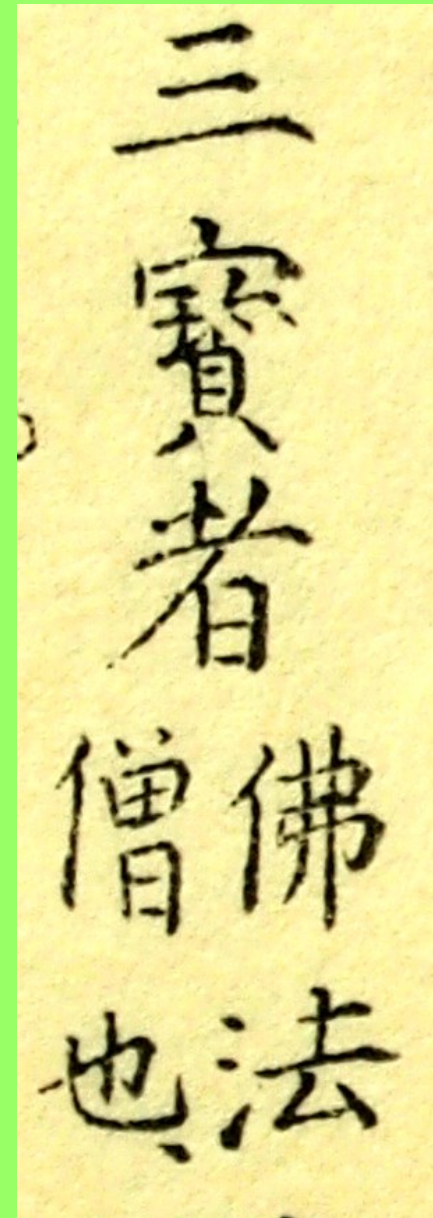
三宝とは

仏・・・仏様

法・・・仏教の法典

僧・・・仏教の僧侶

全て仏教のことを
讃えています



当時は、神道・仏教・儒教に道教を加えた道徳観が主流でした。

十七箇条憲法にも、神道や儒教などから多くの記述が引用されています。

大陸から渡来したばかりの新興宗教である仏教だけに限定することには違和感があります。

これを裏付ける資料として「三法とは
儒仏神」と書かれた書物があります。

せんだい くじ ほんき たいせいきょう
「先代旧事本紀大成経」です。

「先代旧事本紀大成経」は、群馬県
の南牧村にある「黒瀧山不動寺」に存
在しています。



光徳
光明寺
建立
其
世
家
墓
地
之
所
也

「先代旧事本紀大成経」が「黒瀧山不動寺」に存在する理由は、この寺の開祖が潮音禅師であることです。

では、「先代旧事本紀大成経」とは何なのでしょう。

大

成

經

目

錄

聖德太子五憲法 全

延宝3年(1675年)、江戸の版元「戸嶋惣兵衛」より『聖徳太子五憲法』と称する書物が刊行された。聖徳太子の憲法は「通蒙憲法」「政家憲法」「儒士憲法」「釈氏憲法」「神職憲法」の五憲法であり、「通蒙憲法」が日本書紀の十七条憲法であるとされている。

延宝7年(1679年)に現れた『先代旧事本紀大成経』巻七十「憲法本紀」は延宝3年(1675年)の『聖徳太子五憲法』と同じ内容とのことです。



之獨斷。必其辨。以言。

述論大事。或癡有失。

天。

法者。儒佛神也。

大宗何世何人。非賢。

從之。不歸。之法。何以。

群書類従

三寶者佛法僧也

三宝とは仏法僧なり

先代旧事本紀大成経

三法者儒佛神也

三法とは儒仏神なり

「先代旧事本紀大成経」は、延宝7年（1679年）に出版されています。

塙検校が群書類従の編纂を志したのは安永8年（1779年）です。

塙検校は、同じ本でも、何冊もの写本を参照して正しい記述を目指しましたが、「先代旧事本紀大成経」の記述は採用できなかつたのです。

それは何故か？

「先代旧事本紀大成経」は、江戸幕府から偽書として発行禁止となっていたのです。

和学講談所は、江戸幕府の財政援助を受けていたため、江戸幕府が偽書として発行禁止にした「先代旧事本紀大成経」の記述を採用できなかつたのです。

ですから、塙保己一検校は、全ての事情を承知の上で、敢えて、この十七箇条憲法を、群書類従の律令部ではなく雑部に収めたのだと推測されます。

参考までに、この「大成経事件」(先代旧事本紀大成経事件、伊雑宮事件)について、簡単に説明します。

伊勢神宮は、三重県伊勢市を中心とした神社です。内宮(皇大神宮)と外宮(豊受大神宮)を中心として、別宮、摂社、末社、所管社を含めた合計125の社宮を「神宮」と総称します。

ここでは、内宮と外宮の他、別宮の伊雑宮(いざわのみや)を紹介します。

皇大神宮(内宮)



皇大神宮(内宮)



皇大神宮(内宮)



豊受大神宮



豊受大神宮



豊受大神宮



皇大神宮別宮「伊雜宮」



皇大神宮別宮「伊雜宮」



聖徳太子が活躍した当時は、蘇我氏や物部氏などの豪族が天皇政治に影響を与えていました。
(厩戸皇子は蘇我氏と血縁)

「物部氏」の史書と言われた『先代旧事本紀』を元に、江戸の版元により「大成教」は木版印刷されました。

序文には、推古天皇の命によって聖徳太子と蘇我馬子が著したものの（『日本書紀』推古28年（620年）に相当する記述がある）とある。

このことなどから、平安中期から江戸中期にかけては日本最古の歴史書として『古事記』・『日本書紀』より尊重されることもあった。

「先代旧事本紀大成経」の内容は、伊勢神宮別宮の伊雑宮の神職が主張していた、「伊雑宮が日神を祀る社であり内宮・外宮は星神・月神を祀るものである」という説を裏づけるようなものであることがわかり、内宮・外宮の神職がこの書の内容について江戸幕府に詮議を求めました。

1681年(天和元年)、幕府は「先代旧事本紀大成経」を偽書と断定した。

そして江戸の版元「戸嶋惣兵衛」、書店にこの書物を持ち込んだ神道家「永野采女」と僧「潮音道海」、偽作を依頼したとされた伊雑宮の神職らを処罰した。

潮音禪師は、「先代旧事本紀大成経」の発行禁止に伴い流刑となりましたが、第5代将軍「徳川綱吉」の生母、「桂昌院」の帰依が厚く、減刑されて「黒瀧山不動寺」の開祖となりました。

また、群馬県の南牧村にある「黒瀧山不動寺」は、黄檗普茶料理でも有名です。

黄檗普茶料理は、江戸時代初期に黄檗宗祖隠元禅師が中国から伝えた精進料理です。

黄檗（おうばく） 禅宗の一つ

普茶（ふちゃ） 肉や魚を使わない























浄土宗



黒瀧山不動寺



黄檗宗



黑瀧山不動寺





この資料を作成するのに当たり、
温故学会、黒瀧山不動寺、伊勢神
宮などの写真や資料を活用し、また、
インターネットの「ウィキペディア・フ
リー百科事典」や各種ホームページ
上の数々の著述を参考にいたしました。
た。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会
事業部会委員 田中 学